

第 8 回

武蔵野市教育基本計画（仮称）策定委員会

武蔵野市教育委員会

第8回武蔵野市教育基本計画（仮称）策定委員会

○平成21年8月25日（火曜日）

○出席委員

葉養委員長 小島副委員長 小山田委員 松澤委員 原委員 田中委員
安藤委員 磯川委員 萱場委員

○事務局出席者

山上教育長 秋山教育企画課長 鈴木指導課長 石代統括指導主事
大平教育支援課長 平岡給食課長 佐々木生涯学習スポーツ課長
隅田指導主事

○日程

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 中間まとめについて
- 3 その他

午後 7時00分開会

○秋山教育企画課長 定刻になりましたので、ただいまから第8回の教育基本計画（仮称）策定委員会を始めたいと思います。よろしくお願いいたします。

今回と次回で、中間まとめをとということでご議論をよろしくお願ひしたいと思ひます。

本日、本郷委員と井原委員の、2名の委員が欠席でございます。よろしくお願ひします。

それから、本日追加というか差しかえで1つ、この体系図を配付させていただきました。こちらに関しては、後ほど説明をしたいと思ひています。

それから、もう1枚、今後の日程ということで9回から12回までの策定委員会、前回、皆様に日程をお聞ひして、なるべく皆様が参加できる日で設定させていただきました。

予定では、きょう中間まとめに関して肉づけをしましたのでご議論いただき、次回の10月2日で確定をさせていきたいと思ひております。これをもとに10月の半ばから市民の方に公表して、パブリックコメントを求めて、その意見をもとにさらに11月20日から最終的な調整等を図っていききたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

事務局からは以上ですので、委員長、よろしくお願ひいたします。

○葉養委員長 こんばんは。大詰めに差しかかってまいりまして、大分基本構想の体系案も整ってきたという印象を私個人は持っておりますけれども、最後の詰めになりますので、次回に向けていろいろと忌憚のないご意見を承ればと思ひます。

まず、中間まとめ骨子について事務局のほうからご説明いただけますでしょうか。

○石代統括指導主事 それでは、第8回の教育基本計画（仮称）策定委員会、よろしくお願ひいたします。

本日は、前回お示ししました中間まとめ骨子について、若干訂正を加えまして肉づけをして提示させていただいております。

今回の策定委員会では、第1章から第5章まで全体を通してのご意見、ご質問等をいただきたいと思ひております。特に第4章、第5章の基本理念や基本理念を支える3つの柱、重点的に進める取り組み、基本方針などは、これからの武蔵野市の教育施策、取り組み、事業にかかわる大切な部分ですので、積極的にご意見をいただけたらと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。

まず最初に、第4案改訂と書いてあります体系のA3判のものを差しかえさせていただきました。大きく異なっておりますのが、基本方針の2番目と3番目です。上のほうが「豊かな感性をはぐくみ本物に触れる教育を推進します。」ということでしたが、「本物に触れる教育」、そしてそこをとらせていただきました。「豊かな心や感性をはぐく

む教育を推進します。」。そして、その下ですが、「健やかな心と体」というふうになっていましたが、心を上に持っていましたので、「健やかな体をはぐくむ教育を推進します。」というふうに変えさせていただいています。

そして、それに伴って、その下の部分なんですけれども、施策の部分、送付いたしましたものには道德教育の充実、そして教育相談の充実が健やかな体と心のほうに入っていました。それを1つ上に上げていただけたらと思います。

その他、主要事業、それから取り組みのほうも若干言葉の表記の仕方を変えてあります。これは本文の中の第4章、第5章の施策の取り組みと体系図のほう、言葉を同じにさせていただいていますので、そのこの部分の違いですので、よろしく願いいたします。

第4案の改訂版、体系図についての差し替え部分の説明でございました。よろしく願いいたします。

それでは、ここから第4章、これからの武蔵野市の教育についてご説明いたします。

ここは前回、第7回と前々回の第6回の部分で、武蔵野市が目指す子どもの育成という項目を設けまして、内容について皆様からご意見をいただきました。しかしながら、策定委員会の議論の中で、なかなか意見の一致を見ることができませんでした。その後、事務局において検討を重ねる中で、委員の皆様の意見の一致を見なかったことは、それぞれの委員の抱えている、いわゆる子どもの姿が必ずしも一致していないと、それをあえて1つにまとめて武蔵野市が目指す子どもの像という形で表現する必要はないかといった考えに至りました。子どもたちは一人ひとりそれぞれ異なった個性を持っています。その個性を生かして、さまざまな方向に進んで伸びていくことが望ましいのではないかということです。結果的には、1つの型にはめるかのような子ども像を掲げることはやめることにいたしましたので、お願いします。

武蔵野市が学校教育を行っていく上で、子どもたちにどのような教育をして、どのような力をつけていくのか、武蔵野市の学校教育が何を指すのかといった基本理念をここでは掲げ、この基本理念のもとに3つの柱を置いて重点的な施策、事業、取り組みを実施していくことにし、今回の基本理念を提示させていただきました。

まず11ページ、基本理念ということです。「次代を担い 未来を拓く 知性・感性を磨く武蔵野の教育」といたしました。

まず、この「次代を担い」という言葉の中には、次の世代を担う武蔵野の子どもたちに、自分たちが社会をつくっていくという強い責任感、そして使命感を持って生きてほしいという願いを込めました。策定委員からは、今の子どもたちは意思が弱いんじゃないかというような発言も出されましたので、この言葉を入れ込みました。

また、「未来を拓く」ということですが、恐らく今後、武蔵野の子たちが経験するさまざまな困難を乗り越えて、自分の夢や希望をかなえてほしいと。それには、やはりただ待っていても道は開けないと、意思を持ってたくましく、粘り強く未来を切り開いてほしいという願いのもと、この言葉を入れました。子どもたちには大きな可能性、そして高い潜在能力を持っています。学校教育の中で、これらを引き出していきたいと考えています。委員の方々からは、本市の子どもたちが少しひ弱だったり、テストなどの点だけで自分を評価したりとか、もっとエネルギーを持ってもいいんじゃないかというような発言がありましたので、この言葉にみずから切り開くたくましさというイメージを入れ込みました。

そして、「知性・感性を磨く武蔵野の教育」です。武蔵野の子どものプラスの部分をさらに伸ばしていくという観点から、この言葉を出させていただいています。武蔵野の子どもたち、学習に関する動機づけも高く、市独自の学習調査でも、学力調査でも結果はおおむね良好でございます。また、セカンドスクールを初め、自然に触れたり、文化・芸術に触れたりする機会も豊富で、豊かな情操、感性をはぐくんでおります。今後も引き続きこれからの取り組みを武蔵野市の大きな特色として行っていくことで、武蔵野の子どもたちの知性・感性をさらに伸ばしてほしいという願いを、この言葉として入れ込んであります。

また、この基本理念なんですけれども、事務局でも次代を担うだとか未来を拓くということが、なかなかイメージしにくいとか、あるいは未来を拓くのではなく、例えば道を開くだとか、あるいはたくましさを出す意味では、未来に挑むなんていうような言葉のほうがいいのではないかと意見が分かれてましたが、今回、事務局案ということで出させていただいていますので、この後、ご意見をいただけたらと思っております。

続きまして、その下ですが、基本理念を支える3つの柱です。この柱は、第5章の施策の体系における施策展開の3つの柱と同様につながっております。教育理念を支える柱、すなわち武蔵野市のこれからの学校教育を進めていく上でどのような施策を展開していくのか、その土台になるものと考えております。

1番目の柱は、「これからの社会を切り拓く子どもたちを育てる教育」ということで、変化の激しい社会の中で、次の世代を担う子どもたちが主体的に生きていくために身につけてほしい力、すなわち生きる力を学校教育において育てていくということでございます。子どもたち一人ひとりが自分の将来に向かって歩んでいける力を培っていく教育を行っていくということです。この柱につきましては、例えば生きる力と前回までは出していましたので、そのほうがよいのか、事務局案でも意見がちょっと分かれたところ

です。後ほどご意見いただけたらと思っております。

そして2番目の柱、これは「学びの質を高める教育環境」といたしました。子どもたちに質の高い教育を行うために、教育環境を充実させていくということでございます。子どもたちに生きる力をはぐくむ教育を行っていくために、学校の経営力や組織力、これを高めるとともに、直接の教育の担い手である教員の授業力を高めてまいります。また、効果的に教育を進めていくためには、ICT環境など、施設の整備・充実も図っていきたいと思っております。

そして3番目の柱、「学校と地域が協働した教育」でございます。子どもたちの教育に対して、学校と地域がともに責任を持って取り組んでいくということです。子どもたちの教育を学校、家庭、地域がそれぞれの役割や機能を十分発揮して協働して取り組むことが、これからの教育には必要であると考えました。学校、家庭、地域が連携を深めて、開かれた学校、そして学校への支援、そして学校運営への参画を積極的に進めるような施策を考えていきたいと思っております。

以上の柱、3つの柱を理念を支える柱として、この後、武蔵野市の基本方針、施策につなげていきたいと考えております。

以上です。よろしく申し上げます。

○葉養委員長 どうもありがとうございました。

最初に、この基本理念の表現について、もし何か違和感とかご意見ございましたらお知恵を出していただいて、事務局のほうでまた検討されると思いますので、参考にしていただくようにしたいと思うんですが、このキャッチフレーズのところは、かなり重要なところなので、ここはいかがでしょうか。

難しい箇所、「拓く」というのは、これ平仮名にすべきだという議論はなかったですか。自治体によっては、平仮名にすべきだという意見が出ることもあります。事務局サイドから。

○石代統括指導主事 今回は開拓の「拓」で事務局はまとまっています。

○葉養委員長 通常、だからほかのセクションの文章の中で、平仮名を使っているのか漢字を使っているのか、そこら辺もちょっとチェックしてください。

○石代統括指導主事 わかりました。

○葉養委員長 はい、どうぞ。

○磯川委員 この資料を読ませていただいたときに、かなりいいなと思ったんですよ。まず、この基本理念の部分の前半は私はいいと思うんですね。「次代を担い 未来を拓く」というのは。後半の「知性・感性を磨く」という部分が、何かもうひとつぴんとこ

なかったんですよ、私自身は。最後に「武蔵野の教育」につなげるというのは、非常にいいと思うんですよ。

この「知性・感性を磨く」という部分が、要するにこの前、前回のこの委員会の議論の中で、セカンドスクールが持って、セカンドスクールで目指しているもの、あるいはこの10年間、セカンドスクールを教育の現場の中心に置いてやってきた、要するにそこでのねらいを一番明確にあらわす言葉を持ってくるべきじゃないかと思うんですよ。そうすると、体験学習というのは一体何なのかというと、私は自分の発見と、自分というものの発見と、それから他人との関係構築みたいなところというふうに、この前の議論の中では聞いたんですけども、何かそういう言葉のほうがいいんじゃないかなというふうにちょっと思ったんですけども。

○葉養委員長 どうもありがとうございます。

ほかにいかがでしょう。

体が落ちてしまっているんですよ。体の部分が、この基本方針に知性が一番上の四角にあって、2つ目が感性になっていて、3つ目の体というのが落ちている。それは意図的に落としたということなの。

○石代統括指導主事 そういうことではないです。もちろんたくましさとか、そういったものもここで出ていましたので、そういったものを入れたいという考えはありました。

○葉養委員長 ほかの委員さん、いかがでしょうか。別の箇所でも。

○田中委員 私もこれを読ませていただいたときに、一番初めの「次代を担い 未来を拓く」という部分の、特にその後の説明の前書きの初めの2行目が、非常にインパクトがあるなというふうに思ったんですね。「次の世代を担う武蔵野の子どもたちに、自分たちが社会を創るという強い責任感をもって生きていって欲しいという願いが込められています。」。まさにそのとおりだろうと思いました。

ところが、それを読み進めていくと、ここでのインパクトは社会をつくるという強い責任感にキーワードがあるわけですけども、では基本理念を支える3つの柱の中に、ではその言葉を補完する別な部分があるのかというと、実はここへくると薄れてしまっているなという気がするんですよ。だから、せめてこれからの社会を切り拓く子どもたちを育てる教育、確かに主体的に生きていくために生きる力というのは非常に必要なだけですけども、ただそれをもって社会をつくるという責任感、強い責任感には言い換えられないだろうと思っていますので、ぜひそこに社会の一員としての自覚とか、何かそういう文言を入れていただくと、この一番初めの本当にインパクトがあるこの2行が次に引き継がれるような気がして、読ませていただきました。

○磯川委員 これはうちの嫁さんから聞いたんですけれども、一小の校歌の文句の中に「自分も他人も大切にする子」という言葉があるんだそうですね。自己と他者みたいな何かそういう部分、それがやっぱり公という心につながるんじゃないかなという気がするんですけれども、何かそういう言葉を持ってこれたらいいんじゃないかなというふうに思ったんですけれども。

○葉養委員長 ほかにいかがでしょうか。一応いろいろ注文を出していくと、ちょっと事務局が大変です。でも、いろいろ出していただいたほうがいいかもしれない。

はい、どうぞ。

○小山田委員 やっぱりこういう段階を踏みながら、だんだんいいものになっていくんじゃないかということで、私は全体像としてはこれに近い、これでいいと思うんです。一方、ゆっくり読んでみると、「次代を担い 未来を拓く」というのは子どもなんですよ。ね。「知性・感性を磨く」というのは教育者側なんですよ。そこに2つのことが入りまじっているんだけど、理念という大きな枠組ですからさっと読んでしまえばいいかなという気もするし、そういう読み取りもあるんですね。また、次代を担い、未来を拓く子どもを育てるために知性・感性を磨く武蔵野の教育とも読めるんですよ。だから、後ろのほうに重きが置かれているようにも読み取れるんですね。

そこで、ちょっと考えてみたのは、「次代を担い 未来を拓くたくましさと」と名詞切りにして、それと例えば「豊かな知性・感性を磨く武蔵野の教育」となれば、どちらもたくましさと知性・感性を磨くという教育にかかってくるのかなと、幾つかの読み取りができるかと思うんですよ。

だから、内容的には私はこれでいいかと思うんですが、あとは武蔵野の理念というのは、これから外に出ていくと思うんです。そのときに読む人が読んで、何か文章的にどうかななんて思われるのはよくないことですから、その辺は原先生がいるので、一言もらえればありがたいんですけれども、という感じを受けました。

○葉養委員長 原先生、指名されましたけれども。

○小山田委員 国語の先生がいるので。

○原委員 11ページのことですよね。

○小山田委員 そうですね。

○原委員 ちょっと僕、基本理念というより、むしろ2番の支える3つの柱のところで感じたことは、この3つが何か大きさが違うんじゃないのかなという、すごくそういうことを感じたんです。どうせだったら2つ目も何々の教育という言葉でまとめる、何かそういうやっぱりタイトルに、何でここだけ教育環境なのかなということがあってですね。

ですから、要するに1番目が非常に幅広い柱になっていて、ひょっとしたら2番と3番って、1番にみんな含まれてしまうんじゃないのというそういう印象も感じました。ですから、何かちょっとそこの3つは、ちょっと大きさの上からも整理する必要があるんじゃないのかなという気がして事前に読ませていただいたんですけれども。

○葉養委員長 どうもありがとうございました。

○石代統括指導主事 ありがとうございます。事務局ではそこは出ていました。1番目が……

○原委員 それともう1つ、(3)が、どうしてここには家庭が入らないんですかということなんです。

○磯川委員 家庭、入っている。

○原委員 いや、タイトルの中にですね。下の文言には「学校、家庭、地域が、」と書いてあるのに、なぜこの(3)のプロットにはないのかというあたり、ちょっと疑問に思うんですけれども。

○葉養委員長 ほかにいかがでしょう。

はい、どうぞ。

○小島副委員長 基本理念、四角の中、多少直すにしてもこの方向でいいと思いますが、最初の丸の「次代を担い」の1行目のところは、今の子どもたちに期待していることなんですよね。強い責任感を持つてというのは、本当にそうなんでしょうかということです。子どもに責任を持たせていくということでしょうか。

それから2つ目の白丸ですね。こんなに本当に知性と感性を磨くという面について、武蔵野の教育がすぐれているというならば、もうあえてこれ挙げる必要ないんじゃないんですか。この文章を読んだらそう見えますよね。

それから、もう1つはセカンドスクールがすばらしいというのはわかるんですけれども、学校教育では何をやっているのか、学校の中では。これ読むと、学校は学力を高め、セカンドスクールで豊かな情操と感性をはぐくんで、何か学校を軽く見すぎているんじゃないですか。そもそもセカンドスクールのよさはあるけれども、しかし限定的なことに余りにも大きく過大評価すると、ちょっとゆがんでくるんじゃないかと思うんですね。私は武蔵野市民ではありませんから、そう思うんです。

それから、あと2の理念の3、1は内容、質を言って、2は環境で、3番は方法というふうにとると、その環境という言葉は、原先生がおっしゃるような、そろうことによって何かうまくつながるかもしれないんですが、(1)のほうでは生きていくためには生きる力を育てる必要があるとなっていて、ちょっと国語の文章的におかしいですよ。

1つのことを定義するために、その言葉をまた使っているわけですから。それから、(1)では育成して、(2)では生きる力をはぐくむとなっているんですね。この辺も揃える必要があります。

それから、一番下の学校教育への支援、学校運営への支援という、こういうところは学校教育や学校運営と縮める表現をすとか、少し整理する必要があるように思いました。いずれにしても、中身はとてもいい方向でいいことを言っているわけですから、文章を整える必要があるように思いました。

忘れていましたが、「知性・感性を磨く」のところの最後のところで、「特徴でもある高い素養を更に伸ばして」、「素養」という言葉をこういうところに使うんですかね。

以上です。

○葉養委員長 どうもありがとうございました。

どうぞ。

○原委員 ちょっとつけ加えさせていただきたいんですけども、ちょっと前のほうの8ページのことなんですが、終わりから7行目に、こうした不登校児童・生徒の減少の要因として、小学校では、中学校では、教育支援センターの派遣相談員の配置効果があらわれてきたって書いてあるんですが、小島先生の今の学校をばかにしているんじゃないかという言葉をかれば、こういうことよりももっと学校の努力のことをまず言っていたきたいというふうに思うんです。これだと何か、そういう方々を配置した効果だけで減ってきたように思われてしまうんですけども、そんなことよりもっと学校がいろいろ努力しているということを、まず書いていただきたいなというのを非常に感じています。

すみません、ちょっと前に戻って申しわけありません。

○葉養委員長 どうもありがとうございました。

どうぞ。

○松澤委員 今の部分は本当に原先生の言うように、単に相談員を置いたというだけじゃなくて、やっぱり置いたことも1つのあれなんだけれども、学校の先生たちも昔よりすごくそういうことに努力してきていると、相互の意思疎通ができるようになってきたということはやっぱり押さえるべきだと思います。

それから、今の11ページのところに戻りまして、私は最初にこの1行、すらすらと読んだときには、葉養先生と同じく、あれ、知性・感性、いわゆる体というか、たくましさの部分が落ちているんじゃないかなということが非常に気になりました。ただし、その後の解説を読んで、ああそうかと、担いと拓くの中にそのことがあるんだなど。だか

ら、ここを読めば市民の人も納得するかもしれないけれども、何となくキャッチフレーズだけを見たときには、うんと思うことがあるんじゃないかなという気がします。

それから、何回か読んでみて、どうも「次代を担い 未来を拓く 知性・感性を磨く」という言葉のごろというかあれが、「く」が2つ続くのが、どうも何か不自然なような気がします。送ってもらってきたときに私の両隣の人に読んでもらって、これどう思うと言ったら、やっぱり「次代を担い 未来を拓き 知性・感性を磨く」じゃないかななんていう意見のほうが多かった。私もちらっとそういう気もするんだけど、まあそれは細かいことであれなんですけれども、たくましさという部分を言葉で表現するのか、その解説のここで担い拓くという中に入っているんだというところを力説するか、その辺のところかなと思います。

○葉養委員長 どうもありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。

安藤さん、まだご発言ありませんが。

○安藤委員 前回お休みさせていただいて、前回の議事録も読ませていただきまして、ちょっとだけお時間いただくと、子どもたちにとって本当に何が必要かというのが、ここにあらわれてきているんだと思うんですけど、実はちょっとこの間、ジャンボリーに行ってきて、これは困ったぞと思ったのは、最後にもらったレタスの葉っぱを落とした子がいて、その子が私に「落ちてしまいました。どうしたらいいでしょう。」と聞くんですね。それで、「どうしたらいいと思う。」と聞いたら考えていて答えないんです。「このままだとゴミになるよね。」と言ったら、まだ何とも動かないので、「拾ってくれない。」と言ったらやっと拾ってくれたんです。拾って、バスに乗って、ずっと持っているんですね。ちょっとしばらく私、意地悪にもほっといたら、1時間たってもずっと葉っぱを持っているんですよ。これは困ったことになっているなとすごく感じて、多分落ちたものを自分の袋に入れるのがきつと嫌だったと思うんですけど、1時間たって、「入れるのが嫌なら私にちょうだい。」と言ったらくれて、それで落ち着いたんですけど。世に言われている、指示待ち症候群なのかもしれないんですけど、そういう子どものことをこの中にちょっと何か入れたいなと思って、今ずっと考えていて、その答えが出なかったんですけど。

私は事務局の人が考えてくださった、この開拓の「拓」という字にすごくきらっと光るものを感じて、せっかく考えてくださったことなのでこれでいいかなというふうに思っていたんですけど、ちょっと今そんなことで頭の中をめぐらせておりました。何かうまいぐあいに入り込ませられないかなと思ひまして、簡単なエピソードなんですけ

れども。

○葉養委員長 どうもありがとうございました。

部長からちょっと何かありましたら。

○萱場委員 私はこれ見たときに、次代と未来が重なっているかなというのはちょっと感じたところです。

あと知性・感性が、小島先生はそこまで完成しているならいいんじゃないかという話がありましたけれども、1つはここの委員会で議論になった欠けているところは何かという議論の中で、たくましさというのが欠けているんじゃないかという議論があったと思います。それからもう1つは、今、武蔵野の子どもたちが比較的いいと思われるところを伸ばしてあげるということも必要なのかなというところで、「知性・感性を磨く」というのが出てきたんだと思うので、それは欠けているところを補い、いいところを伸ばすというのは、教育としてのスローガン、キャッチフレーズとしては、それなりにいいのかなというふうには思っております。

○葉養委員長 どうもありがとうございました。

○安藤委員 すみません、「知性・感性を磨く」のところだけが、ほかは「である」調であるんだけど、ここは「ですます」調に読めるんですけども、たまたまそうなっているだけでよろしいのでしょうか。

○石代統括指導主事 混在しています。すみません。

○葉養委員長 何か磨くというのは、ちょっとかたい感じはイメージ的にはするんですけども、何か漢文調になっている感じがしないでも、全体的に。

あと、私、感じたのは、この「学びの質を高める教育環境」というのは、学校づくりの箇所なんだけれども、この学校像みたいなものが、何か意外と古い、古いというか、何か今までの、あるいは今までのというか、10年か20年前の何か学校組織像みたいな構造になっているイメージがして、もう少しだからいろんな新しい学校づくり、学習組織とかOECDで提起された、10年ぐらい前ですけども、ラーニングオーガニゼーションという組織自体が学んでいくという。民間企業なんかでは、大分前に使われた言葉らしい組織類型なんですね。組織の1つの類型として、組織自体が、人が人の行動のように学んでいく、そういう組織類型を学習組織というふうに呼び始めて、それで民間企業のほうはそんな甘っちょろいものじゃないよという論調が強くなって廃れていったというのは聞いているんですけども、ただ何か学校なんかだと国際社会の文脈だと、ラーニングオーガニゼーションというのは、学校組織はこれから先も可能性を持つんだという論調がかなりあるんですよ。

きょうもちょっとここに来る前に、高校教育改革のシンポジウムをやっている、文部科学省の講堂で、それを聞きながら、いろんな各地の高校改革の話があったんですよ。三重県の教育委員会の高校改革の柱なんかは、学習組織という組織イメージで三重県立高校の内発的な革新、イノベーションを進めていこうという事みたいで、割合フレッシュだったんですね。だから、何かちょっと、この「学びの質を高める教育環境」という箇所も、もうちょっと何か、先ほど松澤先生のご指摘された、何人かの先生がご指摘した、8ページの教育支援センターの派遣相談員の配置効果が云々という、ここのつながりもあるんですけども、何か学校自体がもう少しみずみずしい創造性に満ちた教育機関になりつつあるのではないかと。それをさらに前に進めていくという何か文脈の中で、学校運営組織の活性化とか、教員の指導力向上とか、こういうものを位置づける構造に持っていけないと、何か昔の学校組織みたいな感じがちょっとイメージ的にするので、そこは表現でちょっともし直せるんだったら直していただけるともうちょっといいんじゃないかと。もっと誇っていいと思うんですよ。武蔵野の学校って、こういう非常に創造的な教育実践をやってきたんだということを、やっぱり前面に出すような言い方にしてもいいんじゃないかなとちょっと思います。

ほかにはいかがでしょうか。ほかの箇所でも、どこでも結構でございますけれども。

あと、この前の原案では子ども像というのが出ていて、ご意見が出なかったものから、この送られてきた文章の中に入っておりますけれども、結局、子ども像といっても100人いれば100通りあるということが背景になっていて、なかなか意見が出なかったんじゃないかということで、そこをこういう基本理念を支える3つの柱みたいな形に書きかえたということなんですが、そこいら辺はいかがでしょうか。やはり子ども像を復活させるべきだというご意見ございますか。

- 小山田委員 これも多少表現上で気になることぐらいしか言えないんですけども、基本理念を支える3つの柱というのは、上の理念をどう支えるかということなので、(2)、(3)は一応支える感じなんですけど、(1)は「次代を担い 未来を拓く」と理念でも言って、3つの柱でも社会を切り開くと言っているんで、理念がここに重なっているような気がします。柱の(2)、(3)に並ぶような言葉で、何か短くさっと言えないかなって気がします。そうすると生きる力になってしまうんですね、結局ね。

だから、厳しいところもあるだろうけどということと、あと基本理念を支える3つの柱で、教育環境でとどめてしまうのか、教育環境の充実とか、学校と家庭、地域が協働した教育の推進とか、最後に動きが見えるような言葉を入れたほうがいいのか、それともここで環境とか教育というふうに柱としてやったほうがいいのか、柱だからこれでも

いいのかなという気はする……

- 石代統括指導主事 柱ということで、それとったんですね。
- 小山田委員 あえてとったんですね。わかりました。柱だから……
- 石代統括指導主事 考えとしてはそうなんですね。
- 小山田委員 はい、わかりました。
- 葉養委員長 ほかにいかがでしょうか。

学校と地域が協働したという箇所については、学校と家庭、地域がというふうにはリフレーズしたほうがいいというご意見があったんですが、そのこの箇所はいかがでしょうか。

協働というのは、ただ中身を埋めるというのが、果たしてどのくらいできるのかとか、あるいは本当に協働してしまっているのかとか、いろいろここは微妙な点があるんじゃないかなと思うんですね。学校、家庭、地域の連携、協力というのは大事なんだけど、協働というのは何を意味するのか、全く同じ土俵の上で進めていくという言葉。ただ、中野区でやっぱりこういう話をしていたら、住民の方から、今はこういう世の中だから、パートで忙しくてそんなどころじゃないという発言があったというような話も聞いたりとか、ほかの新宿区では、学校の役割があるだろうって、何か区民の方が言ったという話も聞いたことがあるんです。なかなか微妙なんですね。

それで、支援という文脈だけで書いてありますよね。「連携を深め、学校教育への支援、学校運営への支援を積極的に進めます。」と。支援というのと協働というのはイコールなのか、協働と言ったら、ただコラボレーションですよ。共同参画化という英語の何かあれがありましたけれども、コラボレーションというのと支援というのは同じだろうかという。だから、コラボレーションというのと、もっと違った要素の何か考えているのだろうかとか、そういう点はどうなんでしょう。

- 安藤委員 地域の側からすると、協働したいという思いは強い思いがあるだろうなというふうに思います。ただ、学校の先生方はどうなんでしょうか。学校のことは学校、おれたちに任せてくれと地域に言われたほうが、もしかしたらありがたいというか、やりやすいというか、そういうのがあるのでしょうか。ただ地域のほうからすると、何か学校に対して手助けをしたり、支援なんだけれども、それ以上に学校の意見を聞きながらいい方向に持っていきたいという気持ちは、ですから協働という言葉はいいなというふうに考えますけれども、学校の先生方の気持ちも伺いたいと。
- 葉養委員長 どうでしょう、先生方。
- 原委員 14ページに、重点3に同じような、同じようなというか全く同じ言葉の部分があるんですね、学校と地域が協働した教育というのがあるんです。それを読んでいくと、

学校支援ネットワークの構築というのと、もう1つ学校の情報発信の推進というの、この2つしか具体的なものはないんです。だから変な言い方、これを協働と言っていいのかどうかという問題は、この中身で具体的な施策、取り組みでいうんだったら、これを協働と言っていいのかなということは、言えるだろうなというふうに思うんです。ですから、安藤さんがご心配されているような中身のことじゃないんじゃないのかなという気がするんですけども、ここで言っているこの協働という言葉のとらえ方が。

○葉養委員長 この施策の一番下の丸の2番目に、「地域の学校運営参画の拡大」という体系図のA3の表の中に。だから、それが何か「学校と地域が協働した教育」という囲みの施策として出てきているから、学校評議員制はもう全部あるんだけど、さらに開かれた学校づくり協議会とか、何かいろいろもっと踏み込んだものの施策としては考えているのかなとは思うんですよね。

かなり柔軟なところではあるんですよね。参画という言葉、亀井先生なんかだと、これは参画であるべきだとおっしゃると思うんですよ。参加と参画というのは意味が違う。参画というのは、英語で言えばテイクパートだと、一部をとってしまうというのが参画だと。ところが、参加は上位になる。だから、いわば参画というと同じ土俵の上に入り込んでしまう構造になる。だから、そこまで学校運営というのを変えるべきじゃないというのが、亀井先生がよくおっしゃっていることですね。きょうもお会いしたんですけども。

○原委員 何回か前だったか忘れてしまったんですが、私がちょっと意見として言わせていただいた中に、確かそういう学校行事なんかの企画まで地域の方々が参加するような内容があったかと思うんですが、そういう方向で教育委員会はお考えなんですかという、たしか質問をしたという記憶は持っているんですけどね。たしかそのときのお答えは、そうではないというようなニュアンスだったというふうに私は記憶はしているんですが、ですからやっぱりこういったところで誤解を与えてしまうような言葉の使い方というのは、やっぱりまずいだろうなという気はしているんですけども。

○葉養委員長 そこが難しいところですね、きっとね。

○石代統括指導主事 前回それは原委員から言われたことで、そこまでは考えていないというのが事務局です。それで、書き方については、またいろんな部分も含めまして精査したいと思います。ご意見あったらよろしくお願いします。

○葉養委員長 選挙の結果によって、また動きが違うことがある。マニフェストに出ていました。

あとほかにはいかがでしょうか。この学校と地域の協働という箇所に家庭を入れたほう

がいいでしょうか、どうでしょうか。それは入れたほうがいいか、学校と家庭、家庭が最初ですかね。家庭と地域。

○萱場委員 家庭といっても、協働というのはちょっとおかしくないですか。

○葉養委員長 そうですね。家庭が入っては。地域だから協働という意味があるのかもしれない。家庭だったら、保護者であれば当然それはPTAとしてかかわっているわけですから。

○原委員 一部の中には、地域の中に家庭も入るといってらえ方を考える考え方もあるようですけれども、下の3行の中に学校、家庭、地域と入っているのであれば、やっぱりきちんと家庭という言葉を入れるべきだと思います。

○葉養委員長 では、ここもちょっと事務局のほうで……

○石代統括指導主事 そうですね。わかりました。ここは精査します。

○葉養委員長 ええ、触れていただくということで。

ほかに、いかがでしょうか。

○原委員 11ページで、もう1ついいでしょうか。

○葉養委員長 はい。

○原委員 私は、上のほうのちょっとさっき意見を言っていないんですが、事前に読ませていただいて気づいた基本理念のところなんですけど、こういうものには切り拓いてほしいとか、そういう言葉の文末で、基本理念を説明する上でこういう言葉でいいのかなというのはちょっと感じたんですけども、どうなんでしょうか。

○葉養委員長 では、それは宿題で。

○石代統括指導主事 はい。

○葉養委員長 ほかにいかがでしょうか。

もしないようでしたら。まだあるでしょうけれども、第4章、重点的な取り組みについて、新規、充実、事業、それから第5章の基本方針について、ここの箇所を、まず事務局にご説明いただいた上で、この箇所のご協議をお願いできればと思います。

○石代統括指導主事 はい。それでは、12ページ、3番、これからの武蔵野市の教育の3番目、武蔵野市が進める重点的な取り組みについてということで説明をさせていただきます。

ここでは、新規、そして充実の事業を中心に上げております。

前回も示しましたが、まず最初に第1番目、重点1ということで「学びの基盤づくり」でございます。学びの実践をしていくためには、その土台となるような基盤づくりが大切だというふうに考えました。ここでは前回の委員の方々の発言も取り入れまして、

学びの基盤を意欲や心構え、そして学習習慣などの学ぶ側のものと学びを提供する側である学校の施設や設備、あるいは教える側である教員の資質・能力なども含めて、広く学びを深めていく上で必要なものということで、学びの基盤ということで提示をいたしました。

学ぶ子どもたちにとって必要な基盤として、ここでは基礎・基本の習得、そして学習習慣の確立、望ましい生活習慣の確立、体力向上健康づくりの取り組みの充実を挙げています。

また、教育環境の部分として教員の指導力の向上、教育用コンピュータシステムの構築、そして校務ICT化の推進、教育センター構想の検討を挙げております。

そして、それにつながる新規の具体的な事業、そして取り組みでございますが、米印のところでございます。各丸の中の下のゴシックで書いてあるところの米印です。

1つ目が、少人数教育の推進、小・中学校駅伝等、児童・生徒の体力向上の取り組みの検討、家庭と連携した取り組みの検討、教育用PCネットワークの構築、ネットワーク活用事例の研究、校務用パソコンの整備、そして情報教育推進校の指定、そして先進事例の研究、教育開発室の機能の充実と教育センター構想の検討ということを行っていきたいと思っています。

前回の委員会において、学校教育を充実させていくためには、教員の指導力の向上というのは不可欠なものだというご意見をいただきました。そして、ここにきちんと位置づけるべきだということもご発言いただきました。また、それに伴ってここでは教育開発室の機能の充実、そして教育センター構想の検討というのも挙げさせていただいています。さらに家庭との連携や、体力向上、健康づくりの取組の充実というのも学びの基盤ということでは非常に大切なことだというご意見がございましたので、ここに入れていただきました。

続きまして、2番目です。13ページになりますが、重点の2、「知的好奇心を高める教育」ということです。

ここでは、児童・生徒の知的好奇心を高める教育を一層充実させるということで、みずから学ぶ意欲を高め、高い知性、豊かな感性を育成するということです。施策としては、言語活動の推進、そして理科教育の充実、自然体験活動・長期宿泊体験の充実、文化・芸術活動の充実というのをここでは挙げさせていただいております。

新規の事業としては、図書館や美術館との連携というものが1つ挙げられていますが、充実していく事業として、言語活動における研究開発校の指定と実践事例の研究、そのようなものを通して言語についての取り組みを各学校で推進していただきたいというふ

うに考えています。また、理科の専科教員の小学校の全校配置、そしてセカンドスクール等の検証・改善による充実を図っていきたいと思っております。また、セカンドスクールの充実や学校図書室、あるいは市内図書館を活用した読書活動の推進というのも、ここの委員会の中で発言があったものでございます。

そして3番目、「学校と地域が協働した教育」でございます。本市が持つ地域の力というものを生かした教育を、一層推進していくということを考えております。コンパクトで比較的小回りのきくというような本市の特性を生かして、学校支援の拠点づくり、あるいは学校と地域をつなぐコーディネーター等の課題に取り組んで、市ぐるみのネットワーク化を進めて、地域の企業や大学とも連携し、豊かな学びを実践するような教育を目指していきたいと思っております。また、学校を積極的に地域に開くという視点から、従来の情報発信の内容をまた一層充実したものとして考えております。

施策としては、学校支援ネットワークの構築、学校の情報発信の推進を挙げ、新規の事業としては大学・企業との連携、その中でも学校支援ネットワークの体制の研究を進めていく、あるいは学校の情報発信の充実に取り組んでいくというものを行っていきたいと思います。

続きまして、16ページからの武蔵野市の基本計画の体系です。

先ほど説明させていただきました施策展開の柱、すなわち作成するために基本方針にその柱をつなげていきたいというふうに考えています。上から見ていきますと、これからの社会を切り拓く子どもたちを育てる教育、そしてここから伸びる基本方針としては、そこにあるように知性を磨き、個性を伸ばす教育を推進します。豊かな心や感性をはぐくむ教育を推進します。健やかな体をはぐくむ教育を推進します。現代社会の諸課題に対応する教育を推進しますというふうな基本方針を4つ挙げています。事前の資料では少し変わった部分がありますけれども、こういった形の4本の基本方針のもと、幾つかの施策をそこから出させていただいております。

2番目の柱、学びの質を高める教育環境ということで、先ほどもご意見いただきましたけれども、この部分は基本方針として学校体制の部分、ソフトの部分でございますが、それと教育施設の部分、ハードの部分に分けて、一方を質の高い学びを保証する学校体制の充実を図ります、そしてもう一方を、質の高い学びを支える教育施設等の充実を図りますというふうに2つに分けさせていただきました。子どもたちの可能な限り有効で効果的な教育環境をつくるという意味で、どちらにも質の高い学びという言葉をつけさせていただきます。

そして最後に3番目の柱、学校と地域が協働した教育でございます。基本方針として、

学校と地域が一体となり取り組む教育の推進を図りますということで、基本方針を立てさせていただきました。

以上、施策展開の3つの柱、前の教育理念を支える3つの柱と同じなものをここに持っていきまして、それぞれの柱から基本方針を出し、その中から施策を幾つかピックアップしたものがそこに書かれているものでございます。4案の改正案の体系図ではそのような形になっていますので、この3つの柱、そして7つの基本方針、その後25の施策が連なっていて、その後に主要な事業の取り組みということをもとめさせていただきます。このような流れでまとめましたものが、見ていただきましてご意見あればここでいただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

○葉養委員長 どうもありがとうございました。

それでは、12ページから16ページの箇所につきまして、ご意見等よろしくお願いたします。

どうぞ。

○原委員 重点が1から3まであるんですけども、事前にいただいて読んだときまず感じたことは、重点の2と重点の3は基本理念を支える3つの柱と全く同じ言葉なんですけど、重点の1と基本理念の1だけが言葉が違うんですね。全く2と3、同じなんですけど、だったらむしろ基本理念を支える3つの柱の(1)を学びの基盤づくりというふうにしてしまったほうがいいんじゃないのかなという気がするんですけども、なぜこの1だけが違って、2、3は基本理念を支える3つの柱と重点が同じ、2と3は同じで1が違うというのはよく私にはすんなり入らなかったということが1点。

それからもう1つ、12ページから始まる丸を打った中に、基本方針の1とか3とか5とかというふうに関連づけをされているんですけど、これを15ページまで読んでいくと基本方針が7つあるんですけど、基本方針の4に関するものが何もない。こういうのでいいのかなという気もしているんですけども。最初読んだとき、何か基本的なところで率直に感じたことはその2点なんです。

以上であります。

○葉養委員長 どうもありがとうございました。何かコメントありますか、事務局のほうで。

○石代統括指導主事 2番と3番というのが重なるということですよ。

○原委員 基本理念を支える3つの柱に、(1)、(2)、(3)とありますよね、11ページに。それと12ページに始まる重点1、2、3とありますよね。重点の3は理念を支える3つの柱と全く……。

ごめんなさい、3が同じなんですけど、何か、どうして1つだけここが同じなのかなというのを思ったのと、それからさっき申し上げたように基本方針の4というものがどこにもないというのは、基本方針の4はどういう扱いをされているのかなということも思ったんですが。

○石代統括指導主事 現代社会のですね。

○葉養委員長 ほかにいかがでしょうか。

○小山田委員 質問だけなんですけど、重点1の「学びを実践していくためには、」という言葉があるんですけど、これよく使われる言葉なんですか。学びを実践していくというのは、教師側がですか、それとも子ども側ですか、それとも教師と子どもが互いに学びをやっていくということでしょうか。

○石代統括指導主事 両方です。

○小山田委員 両方。学びを実践していく、どういうことかぴんとこないんですよ。学びを実践していく。それが1つと。

全体的なことなんですけれども、次代を担い、未来を拓くというのは、結構たくましくというような意味がここに入っているかと思うんですけども、そういったことの基盤づくりみたいなものがあるんですけど、そういう言葉がこの中に入ってこないんですよ、基本方針とか幾つかの中に。知的な好奇心を高めるというのは、学びの意欲だとか学びの楽しさの身に付ける上では大事なんですけど、それと同時にやっぱり子どもたちが目標を持って挑戦して、その実現のために忍耐力を持って、粘り強くそれをやり遂げていくという気持ちが、この重点的な取り組みのどこかの文言の中に入ってきてほしいんですよ。やっぱり次代を担い、未来を拓くとなれば、ある程度そういったことも身につけさせていかないと、ただ楽しくておもしろいというだけでは、その武蔵野の子に足りないものがちょっとにじみ出てこないの、何かそういった理念が実現できるような表現をどこかに入れてほしいなという気がするんですよ。

○石代統括指導主事 ありがとうございます。

○小山田委員 やっぱり体験とか達成感を積み重ねながら、人生とか生活を前向きに生きていくような、そういう武蔵野の子どもというのがどこかに見えてほしいなという気がします。

○葉養委員長 どうもありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。

どうぞ。

○田中委員 まず一番初めの重点1の一番初めの①の基礎・基本の習得、学習習慣の確立

の部分なんですけれども、ここの2行目に少人数指導という言葉が出てきて、下の施策の米印の部分では少人数教育なんです。これは意識的に使い分けられているのか、その定義づけがちょっとわからないので、そこは知りたいと思いました。

少人数指導をさせるということは、小学校で言うならば1人で授業が行える人材がいなければ、決して少人数にはなっていないわけで、そういった人的な配置の部分の問題がありますので、そこも知りたいというふうに思いました。

あと、ここの並びなんですけれども、仮に少人数教育だとしたら少人数教育を推進するのは学校ですよ。2番目の学習支援教室の充実と、今後、長期休業中と書いてあるけれども、そういう形でやるのかまだそれは見えませんが、現状でいう学校とはちょっと違いますけれども。それから、授業改善の取り組みの充実は、これは学校ですよというふうになっている。この順序立てが、これでいいのかどうかというように思いました。それが1つ。

それともう1つ、学習支援教室の部分の文言で、読むと「学習支援教室により、学習相談や個別面談の機会を充実させ、」と書いてあるんですね。現状の学習支援教室をちょっとイメージしていうならば、学習相談には確かになっていると。だけど、個別面談というところまでのレベルではないと思っているんですね。ですから、これは将来の施策の部分なので、そういうことは構想としてあるんですよということであるならばいいんですけれども、現状の中ではそれは行っていない話だろうというふうに思っています。

それから、2点目が13ページの一番上になりますけれども、要するに「教員の事務負担の軽減を図り、子どもたちと向き合う時間を確保します。」というのは、今文科省を含めて検討していただいている部分ですので、ぜひというふうに思っているんですが、ICT環境を整備することによりこうなると、それだけではないと思っています。そのことも大事なことだろうと思いますけれども、ただこれをもって子どもと向き合う時間が確保できるんだと読み込まれてしまうと、ちょっと学校の現状とはそれは違うだろうと思いますので、などというような形で、そういうのはもちろんあるんだというような表現にしていただけると、すっきりと読み込めるかなと思いました。

3点目です。ちょっと瑣末な部分になってきますけれども、14ページの真ん中辺に文化・芸術活動の充実ということで、そこに書かれていることはそのとおりだろうと思いますが、現状は武蔵野市がどういう方向にあるかということ、演劇教室、オーケストラ鑑賞教室については、授業数の確保という視点では縮小の方向に今いっているわけですよ。それで、ここで充実・検討・改善ですから、検証して今後またどうなるかということはあるんでしょうけれども、こういうふうに今言い切ってしまうと大丈夫なのかな

と思いました。

それから、ぜひこれは希望として入れていただきたいと思っているんですけども、先ほど安藤委員のほうからも話があった学校の支援の部分で、私たちが、参画まではいかないんですけども、一緒に考えてほしいなと思うこともたくさんあるんですね。その1つに、学校は今、年に1回、道徳公開をやっているわけですね。幾ら開いても、正直なかなか人は集まらない。ぜひ今、それこそ子どもたちの規範意識の問題ですとか、小1プロブレムですとか、子どもたちが抱えている問題が山ほどありながら、そういうものを議論する場をつくってはいるんですけども、実際、保護者も授業が終わると、お子さんと一緒に帰ったほうが楽しいということでほとんどが帰られてしまう。地域の皆さんにも呼びかけはしているけれども、青少協あたりで頼まれたり、いろんな知り合いに参加せざるを得ないと言ったら申しわけないんですけども、そういう方たちが、本当に何人か限られた方たちが残っていただいて議論する。その方たちとは、実はそこで議論しなくても、ふだん違う場所でもそういう議論はいつもしているし、議論すればお互いにそうですよねというような人たちばかりなんですね。ですから、そういった部分に本当に巻き込んで、地域の皆さんがそういう支援、中身の議論に乗ってくださる、そういったものが本当は学校はすごく今ほしいというふうに思っています。

ですから、ぜひ学校と地域が協働した教育という部分で、ほかの部分でも道徳の部分が出てきますけれども、ぜひそれを1つ入れておいていただいて、全市的にそれにはもう市民が参加して、ぜひ学校と子どもたちの道徳について語り合えようよというふうにやっていただけると、私たちも大変心強いですし、そういうように思って、安藤さんのように思ってくださっている方たくさんいるわけですので、そこで本当にお互いに議論をしたいと思っています。

○葉養委員長 どうもありがとうございました。具体的なご指摘がございました。それを受けとめさせていただいて、また検討をお願いしたいと思います。

ほかにいかがでしょうか。

学校と地域が協働した教育というのは、これは多分学校だけでできないところがあって、1つのポイントは社会教育主事さんとの連携をどう進めるかというあたりが課題になるんですけども、結構歴史的経緯があって難しいんですよね。そこら辺はどうなんですかね。社会教育主事と学校教育との連携というか、そのところが溝がかなり深いと、それ自体がものすごい難しい。だけど、社会教育主事さんのほうが地域をご存じの場合があるんですよね、専門職ですから、地域を相手に。だから、そういう専門職の方の連携、協力というのがあると、すごくこういうふうにして、いい人がいたらと。そ

ういのはどうですか。

○安藤委員 私、社会教育委員をやっておりますけれども、社会教育主事という免状を持っている方たちは、多分生涯スポーツ課の中にたくさんいらっしゃると思うんですけれども、その方たちが武蔵野市の中でどういうふうに活躍されているか、あるいは活躍されている場というの、申しわけありません、私は確認していません。

○萱場委員 武蔵野の場合は、いわゆる公民館活動とかといったことを含めて社会教育という理念が非常に小さく、やはり官が民に対して啓蒙する視点は、武蔵野では違うんじゃないという歴史をずっと持ってきた地域でして、社会教育主事というのは実質、今、全く機能していないのが現状です。

○葉養委員長 コミュニティセンターをつくったところですね、真っ先にここは。

○萱場委員 そうですね。

○葉養委員長 社会教育法の改正で、今までは施設型社会教育主事だったんですけれども、博物館には学芸員とか、図書館には司書とか、そういう形で社会教育主事さんは公民館という歴史を刻んできたんですけれども、社会教育法が改正になって、学校と地域の連携の場合に、地域を職場の1つとして働くような規定改正が必要だということで法律は変わったんですね。変わったんですけれども、なかなか戦前からの歴史がありますから、社会教育主事さんというのはなかなか縦割りの発想が結構強いところがあって、だけど多分、学校と地域の協働というのを本格的に僕はとるとすると、そういう専門職的な方のスキルとか知恵とかエネルギーというのは非常に大事な面があります。それが弱いとなると、大体できるセクターというのはあるんですね。

○安藤委員 私が考えるに、お役所のほうのそういう方たちよりも地域のほうの例えば青少協、ほかの地域のことをちゃんと勉強していないので正確にはわかりませんが、恐らく武蔵野市の青少協というのは活発に活動しているほうなのではないかなというふうに思っています。いい意味に、悪い意味に、おせっかいなくらいに青少協は機能しているんじゃないかなというふうに思っているんですけれども。

その方たちは学校のこともわかっており、地域のこともわかっておりという意味でつながる、つなぎ役ですか、コーディネーターもですけれども、組んでそういうことを担うことができる人材がいるところではないかなというふうに思っています。開かれた学校には、どこの学校にも必ず入っていますし。ですから、そうですね、お役所のほうの方がいらっしゃるなくても、地域のほうにそれを担う人材はいるというふうに考えています。

○葉養委員長 すそ野を拡大しようとする、研修プログラムはどうするんだとか、いろ

いろほかの自治体なんかだと悪戦苦闘しているところがあるものだから。最初の時期はいいですよ、人がいるから。だけど3代目ぐらいになっていくと、だんだん初心が忘れられていってということがあるものだから、そうすると初心を忘れないようにするためには研修のプログラムとか、そういうのを入れ込んでいかないとつながっていかないというのもあるって、そうすると研修プログラムはだれがつくるのとか、だれが講師になるのとか、いろいろそういう問題には直面している。あるいは人材バンクを集めようとする場合に、事務局はどうするのとかいろいろあるものですから、そこら辺の具体的な体制整備が大丈夫なのかなと、ちょっと老婆心ながら心配な面があって……

○石代統括指導主事 本当にそういったことでは課題がたくさんあると思います。コーディネーター1つにしても、この会でも随分、学校、それから支援をする企業や大学、その他いろんなところとのコーディネーターが必要だというご意見もいただいていますので、役所の中でも例えば事務局をどうするかだとか、あるいはそういったものを地域の方々に、何かやっていただける方がいるのかとか、そういったものもちょっと時間をかけてだと思えますけれども、一つ一つ課題をクリアにしていきまして、ぜひともこの地域の地域の力というものを、なるべく子どもたちにとって、豊かな学びとさっきから言っていますけれども、使いたいというのが現実ですので、そのような方向で今後も研究を続けていきたいと思っています。

○葉養委員長 どうぞ。

○小島副委員長 今と関係するんですけども、学校の教育活動を効果的に行うために、保護者や地域のそういうものを活用するんだという、それをきちっと示していただければ。では、具体的にどういう人をどういうふうに活用していくかという各論のところでも幾らでもできますよね、それが1つです。

あと、話題変えてしまってもいいですか。

○葉養委員長 はい、どうぞ。

○小島副委員長 13ページに、ここだけじゃないんですが、理科教育の充実とあるんですよ。今、理数教育の充実ということで進んでいるんですけども、武蔵野でもやはり数学教育は余りお金かかりませんから、理数教育の重視というのもそのまま入れておいて、理科教育は確かにここに挙がっているような、いろんなことでお金がかかるんですよ。新学習指導要領では、設備なんかも含めて。一方、数学のほうはお金はかかりませんから、小・中一貫カリキュラム、授業を改善するとか、それを出していただきたいということです。

○葉養委員長 どうもありがとうございました。

○磯川委員 この重点2の部分の中身というのは、言ってみたら武蔵野の教育の差別化部分、要するにほかの地域で行われている教育と武蔵野の教育が違う、差別化メニューの部分がここに集まっているという理解でいいんですか。

○石代統括指導主事 差別というか……

○磯川委員 いや、差別じゃない。ビジネスのところで差別化戦略という言葉をしょうちゅう使うんですけども、要するに他者と特徴づける、他者との比較の中で特徴づけるという意味です。だから、要するに武蔵野の教育は、ある高いレベルの教育を目指していますよという部分がここに集められているという理解でいいんですね、これは。

○石代統括指導主事 それを意識しました。意識しています。

○磯川委員 そういう理解ですね、これ。

○石代統括指導主事 はい。

○磯川委員 わかった。だから、逆に言うところの重点のほうが先にあるんですね、これ。重点1、2、3があって、そこから引っ張ってきているのが理念のこの3つの柱になっているという構図なんですか、これ。1番、要するに重点1の部分というのはあくまで基盤づくり的な部分で、当然やっていかなきゃいけない施策、基本施策みたいな部分があって、2番目にその特徴づけるメニューがあってということの感じですか。それで、地域との問題はやっぱり避けて通れないねという整理なんでしょうね、これ。

○石代統括指導主事 2番目にお出ししました知的好奇心を高める教育をする上でも、やっぱりまずは土台が大事だろうと、土台がないところにはそういったものがなかなか乗っていかないだろうというふうな考えから、順番的にも1番を学びの基盤づくりとさせていただいて、その上で知的好奇心を高める教育というのは2番、特色の部分を出させていただいています。

○磯川委員 だから、そういう意味でいくとこの1番、基本理念を支える3つの柱という言い方をするんだったら、この1番の言葉、(1)の言葉は、さっき原委員がおっしゃってくれたように、学びの基盤づくりでもいいのかもしれない。1番の部分は、やっぱり理念のように思えますね、中身的にいうと。

○原委員 いいですか。12ページから後をちょっと事前に拝読して感じたことなんですけど、ここに米印の小さいやつで、僕は片仮名全然頭に入らないので申しわけありません。ここにこういうものを載せる必要があるのかという。なぜかという、施策の体系でまた似たような言葉が並んで出てきていると思うんですね、16ページ以降に。それで、何かカテゴリーがちょっとずつ違っているようなところも感じないわけでもない、何かここにこういうのを載せる必要があるのかということと、もしもう1つ別な視点から見

ると、同じような言葉がいろんなどころに出てくるんですね、12ページ以降。例えば、家庭と連携した云々というのが、例えば学習習慣の確立と推進というこのところに出てきますし、望ましい生活習慣の確立のところにも家庭と連携した取り組みの検討とか、それから研究指定校制度云々のものが教員の指導力向上のところにも出てくるし、教育用コンピュータのところにも出てくるし、言語活動の推進のところにも出てくるし、それから14ページのところの一番上には、市内大学・企業との連携、ネットワークづくりというのがあるながら、15ページにもほぼ似たような言葉が出てくると。むしろだったらこっちの言葉で重点の3つをくし刺しにしてしまったほうが、よっぽどまとめやすいんじゃないのかなという気がして、私は事前に読んだんですが。あえて3つ挙げているのに、それぞれ何か似たような言葉がずっと出てくるんだったら、むしろそっちで3つを貫いてしまったほうがよっぽどいいんじゃないのかなという気がしながら事前に読ませていただいたというのが率直なところですよ。

○葉養委員長 どうもありがとうございます。

先ほど田中校長から、文化・芸術活動の充実の箇所は、これはちょっと廃れてきているというわけではない、ちょっと弱まってきているのにと、ここはかなりポイントなのでちょっと……

○鈴木指導課長 ご説明させていただきます。

学校向けには見直しということで、鑑賞教室ですとか、それから演劇鑑賞教室とか、オーケストラ鑑賞教室ですとか演劇鑑賞教室の対象学年を絞っている実態があります。それについては今縮小の方向でというふうにお話もあったんですが、決してそうではなくて、いいものは何でもたくさんどんどんやる方がいいのは確かなんですけども、やっぱり時間的にも限られた中でやっていますので、いいものをとにかく全学年とかどの学年でもということではなくて、本当に必要なものとして残しながら、ではどこでやるのがいいのかということ吟味しながら、対象学年も検討させていただいている経緯がございます。ですから、これまで対象学年が2学年だったものが1学年になるとか、縮小の傾向はありますが、単に縮小ということではなく、対象学年を厳選して実施していくというように見ていただけたらと思います。

○葉養委員長 どうもありがとうございます。

田中先生、それでよろしいですか。

○田中委員 もっと根幹なのは、イベント的な事業が大切なんじゃなくて、日常的な、例えば学校での音楽の授業だとか図工、美術の授業をどう質的に高いものにしていくかのほうが、ウエイトとしては8割方、残りの2割がやっぱりそういった本物に触れるとか

そういうことなのかなと思ってはいるんですね。なかなかそこまで全部は、全体はちょっとし切れないんだろうと思いますけれども。

○葉養委員長 はい、どうぞ。

○鈴木指導課長 その辺につきましても、例えば武蔵野の児童・生徒の場合は一定水準の力はすでに身につけていると考えています。そこから先の学習意欲とか、さらに学習意欲を高めるためには、やっぱりここにあるような知的好奇心を高めるような本物に触れる感動ですとか、あるいは専門性の高いものに触れて、ここはどうなんだろうというような関心などを高めていくことがとても大事だということで、当然日常の授業もそれは大事にしているわけですが、さらにその上を目指す動機づけ、きっかけとなるような、外的な刺激とでも言うのでしょうか、そういうことを考えているところです。

○小島副委員長 それは授業の概念が間違っていますね。例えば、18ページの文化・芸術の充実のところ、日ごろの授業では味わえない、だから合奏、すぐれた舞台芸術の鑑賞、それ自体を授業として考える、そういう発想に立たなければ、だから授業の時間が大事だからそれをとってしまおう。子どもにとって、指導として大事ならばそれは組み込むというそういう考え方で通していかなければ。

それから、今のようなことは後で調整つきますよね。だから、原委員が言ったような、例えば12ページから16ページを施策の中に織り込んでしまおうとか、そういうふうにして見やすくしていくとか、そういうことをちょっと事務局に考えていただきたいなと思います。

○鈴木指導課長 今ご指摘のように、授業の中で、まさにこれは教育課程の中でやっていますが、授業の一環ということで考えております。今、原委員が言われたことについての小島委員のご発言のとおり検討させていただきたいと考えております。

○萱場委員 ただ、今のところを体系の中に入れてしまうと、この武蔵野の計画の特徴というものが全然出てなくなってしまうのではないのでしょうか。

○小島副委員長 だから、ここに置かなければいけないなら施策のほうを変えとか考えればいいわけでしょう。要するに、市民が見たら多分、最初から読んでいくと、また同じことが出てきた、また同じ、3回も4回も同じ流れを見るわけです。そのところを整理してみてもいいかがですか。

○石代統括指導主事 後ろのほうの2度出ているものに関しましては、例えば抜くだとか、あるいはそういう説明をするだとか、そういう形で対処はできますので、今後考えさせていただきたいと思います。

○小島副委員長 そうしろと言っているわけじゃなくて。

- 石代統括指導主事 すみません。見せる上で、重点というものを最初に持ってきたかったなというふうなつくりになっているということです。
- 葉養委員長 ほかにいかがでしょうか。
- あと、基本方針4に対応したのがないというご指摘がありました。何か考えておられるんじゃないかと思うんですけども、その点はどこいら辺に入れ込もうということを考えておられるんですか。
- 石代統括指導主事 施策の内容では、環境教育、情報教育あるいはキャリアでいくとかなりありますので、例えば2だとか、そういった中にも組み込めること可能ですので、組み込んでいきたいと思います。ご意見ありがとうございます。
- 葉養委員長 ほかにいかがでしょうか。
- 安藤委員 現代社会の諸課題に対する教育というのは、私は5年、10年のスパンでの施策だというふうに聞いていますので、その年々というか、その時期時期によって対応するものというものを考えてもらうというわけにはいかないのかなと思うんですけども、10年間、現代社会の諸課題が同じというのもどうかなと思います。そういう意味では、ここの部分は、今5年間とさっき出てきましたね。この5年間はこことここ、4つ挙がっているうちの重点というかそんな感じで考えて、後からどうでもつけるような形になっていけばいいなというふうに思ったんですけども、融通性がきくというか。
- 葉養委員長 とりあえず主要事業の取り組みというところを見ますと、新たな事業の取り組みとして情報教育推進校の指定というのとICT機器の整備というのが入っているわけですね。当面の5年間の大きなうねりの中で、こういう事業が考えられるという…
- …
- 安藤委員 12ページのところに、最初、私、（基本方針1）と出てきたときに、どこだどこだと思って前を一生懸命探してしまったんですね。そうしたら実は後ろに出てくるんですよ。だから、これは基本方針1なんだよと示したいのかもしれないんですけども、だったらこれが前にないとちょっと探せない、ここになくてもいいかなというふうに思いました。
- 原委員 僕は、何でわざわざここに基本方針の1とか何かを載せたのかと。書かなければ、別に4がないなんてだれも気づかない。そこに、括弧で基本方針1とか3とかって挙げた意味づけは何なのかなというところを感じたんですけども。安藤さんおっしゃるように、後ろを見なきゃわからない。
- 石代統括指導主事 わかりやすいかなと思って両方に入っているんで、後ろにももちろん重点何がしというのを書いたんで、すみません、入れさせてもらっています。ちょっ

と工夫してわかりやすいように、混乱しないようにこれからしていきたいと思います。

あともう1点、施策の2ページに、この位置づけのところに本当は出てくるんですけども、この教育基本計画、基本的に5年ということで、来年22年度から22、23、24、25、26と、26年度のまでの一応中期、計画ということで出させていただきます。

○原委員 ついでに申し上げて申しわけないんですが、今出たのであえて申し上げますけれども、後ろのほうに今度は逆に重点1とか2とかついていないものもあるんです。だったらむしろ、それこそこれぐらいの紙にマトリックスに事業を並べて、こっちに重点1とか何とか丸でも打っていけば、そのほうが一覧でもっと見やすいんじゃないのかなって気がするんですけども。

○石代統括指導主事 ありがとうございます。そうですね、前出ししていないものは重点というのは抜けているので、施策が入っている部分も。わかりました。

○葉養委員長 基本計画なんかも、こういうA3判とか、こういうスペースなんかで縦軸、横軸と整理していますよね。だから、基本構想とか基本計画というのも相当歴史がありますから、つくり方に歴史があるから、そのノウハウをうまく使って行って、わかりやすく整理していけばいいのかもしれないですね。もう数十年やっているわけだから、企画のほうは。

ほかに、いかがでしょうか。

○磯川委員 この13ページに、教育センター構想の検討、これについてももう少し、どういうところから、これまでの検討、経緯なんかもあったんだろうと思うんですけども、その辺を聞かせていただけますか。

○鈴木指導課長 ここで挙げられている教育センター構想は、今、本市には教育センターがないということで、分散して幾つか担っているようなところがございます。教育支援センターもそうですし、教員対象では、ここにあるように教育開発室というのがあります。それらを一元化して、もっと広い機能を持たせることができないだろうかということで、今ある教育開発室、機能を充実させながら、そこに例えば教師、教員が相談できるような機能を持たせるとか、あるいは市民がそこに来て何かを調べることができるような機能を持たせることができないかというような検討過程の中で、今検討の俎上に引き出したところです。

○磯川委員 この考え方は大分前からあるんですか、教育センターという組織的な部分がいいんじゃないかという。

○鈴木指導課長 そうですね。ただ、前回の計画の中ではきちっと位置付けられていなかったわけです。でも、思いとしては持ち続けています。

- 萱場委員 第3期の長期計画にはたしか出ていたなど。とにかく過去の長期計画に位置づけがあったのは間違いないです。
- 原委員 20年前ぐらいに1回あって、立ち消えたんじゃないなかったかって気がするんです、僕の記憶だと。20年ぐらい前にたしかあったんです。それぐらい……
- 萱場委員 多分、建物を含めてイメージされていたので、箱物として消えてしまったというそういう流れだと思います。今議論しているのは機能ということで着目していますので。
- 小島副委員長 現在、研究と開発の機能は残っているわけですね。
- 鈴木指導課長 研究開発機能です。開発室はありますけれども、本当に十分機能しているかと言われると厳しい状況です。
- 磯川委員 開発の開発という意味合いは、要するに教育メソッドの開発とか、そういうのも入っているんですか。
- 鈴木指導課長 資料収集的なことを含めてですよ。メソッドの開発までは十分機能していないのが現状です。とりあえず今、資料収集をしながら活用できるようにすることでとまってしまっている状況です。
- 松澤委員 現状は資料室。
- 小島副委員長 東京都が研究所を2つ持っていたんですけども、なくして、研究開発とか資料収集というのをなくしてしまったの。でもこれは多分、10年ぐらいたつときいってくると。だから、細々とそれが残っていたとすれば、研究開発という、あるいは資料収集というそういう機能を残しながら、さらに相談、研修という機能を強めていく、教育センターとしての構想を実際に実現していくというのは、私は素晴らしいことだと思いますね。
- 鈴木指導課長 今申し上げましたけれども、研究施設の検討というのは第3期の長期計画の中で検討しているところです。またもっと前から研究していたというお話もありましたが、既存の施設を活用して内容的なものを充実させていくということで考えています。
- 葉養委員長 やっぱ教育というのは人ですから、人の開発というか、そういうところを強めていかないと、幾らカリキュラムが、あるいはメソッドが高度化していても、それを担うのは人ですから。僕ら大学なんかでも、国研でもFD（ファカルティデベロップメント：教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取組の総称）の担当者の養成をどうするのかとか、そういう今プロジェクトなんかを盛んにやっているんです。ただ、教員研修の世界、あるいは教育研究所の世界についていうと後退の局

面ですよね。この前、横須賀に行ったんですけども、横須賀はまだ教育研究所があるんですけども、やっぱり議会から相当責められていて、必要だと言うんだったら実績を示せとさんざん言われている。だから、そのうちに消えてしまうんじゃないかと何か言っていました。

だけど、特にFDの部分というのは、みずみずしい学校が持続するためにはかなり大きなポイントなんです。専門性をどう練磨していくかとか、専門性とは何かということを追いかけることも含めて。だから、そういう何か足元を強めるような提言というのは、繰り返しやっていったほうがいい感じはするんですけども、それと並行して努力もしないといけないですね。やっぱり世間の人、本当に教師って専門家なのという視線があることは事実ですよ。だから、そこら辺の、やっぱりそういう視線をどう乗り越えるかということも含めて、再度、専門家としての自己を強めていく、基盤を強めていく何か視点というのを失ったら、学校って命が消えてしまうんじゃないかなという、極端に言えば。教育会社に、きっとですね。非常に微妙なところなんです。ここはそういういろんなことを含めながら、多分事務局はお考えになっているだろうと。

ほかにはいかがでしょうか、ほかの箇所。あるいは、これは抜けているんじゃないかというような箇所がございましたら、主要事業とか取り組みの箇所でご指摘いただければと思います。

○原委員 16ページ以降でもいいんですか。

○葉養委員長 ええ。

○原委員 これいただいたものは、まだ差しかえたものになってないですよ、事前にもらっていますから。

○葉養委員長 あと1回ぐらいでまとめなきゃいけないので、ぜひお願いします。

○原委員 ちょっとやっぱり思うのは、例えば18ページの読書活動の充実というところで、例えば図書室サポーターの拡充とか図書館との連携で、本当に読書活動の充実という施策になるのかというあたりが心配なんです。これで本物に触れる教育という言葉がなくなっただけなんです。豊かな感性をはぐくむということで、図書室サポーターの、読書活動の充実というので、文章の中には朝読書や読書習慣などの取り組みというのは入っているんですけども、多分読まれる方は、この文章よりまず施策を見るんじゃないかという気がするんですけども、そういう点では幾つかやっぱり気になるところがほかにもあるんですけども。

○葉養委員長 ほかにいかがでしょうか。いろいろ出していただいたほうがありがたいので。どうぞ。

○松澤委員 今の18ページのところに関連して、道徳教育の推進という柱になっていて、内容はそうだと思うんですけども、やっぱり今の子どもたちに一番欠けるのは、最初の1行に書いてある思いやりの心とか、あるいは規範意識を守るということですよ。そうすると、例えば規範意識と思いやりの心の育成とかということ強く出して、内容的には道徳のことというほうが、やっぱりこういうところをまず育てたいという思いが伝わるんじゃないのかなと。ただ大きく道徳教育の推進というと、何か余りにも平面的というか、ここに力ということが理解しにくいように。

○葉養委員長 どうぞ。

○小島副委員長 同じく関連して、今度の学習指導要領の改訂では、道徳教育の推進というのは道徳の時間のことを言っているんじゃないんですよ。各教科、領域について何をやるか。例えば、数学の時間に道徳教育って具体的にどうするのか。そういうのも含めて道徳教育、学校が、現在の子どもたちが抱えている課題を中心にして当たり前のことをきちっと指導していく、その上でこういうことがかぶさってくると一層効果が上がってくると思うんですね。1968年に文部省が出した「小学校・学校における道徳教育」、「中学校・学校における道徳教育」というのは、体育で道徳というのはどういうふうにするかと書いてある。読んでいくと、なるほどなと思いますよ。そんな奇抜なことじゃないです。

○原委員 それから、この米印みたいな、施策みたいのが書いてある項目と書いていない項目があるんですけども、これはこれでいいんでしょうか。

○石代統括指導主事 それは先ほど言いました、前に出ているものが米印がとってあるというか、重点何々に載っているものは米印が入っていないものなので、それを精査させていただきます。

○原委員 だから、図書館との連携なんて両方入っているじゃないですか。何だかちょっと統一性がほしいかなという気がするんです。

○石代統括指導主事 わかりました。

○葉養委員長 ほかにいかがでしょうか。お気づきの点はどんどん出していただいたほうがいいかと思います。

○小島副委員長 あと17ページの下から3つ目に言語活動の推進とありますよね。その言語活動の推進という言い方は、充実というふうに改めるというわけには。言語活動の充実というのは、ここに書いてあるとおりなんですけれども、中央教育審議会の答申を受ければ。でも、本当の意味は体験の経験化ですよ、言語活動を通して。体験したことを言語活動を通して内面化する。知識や技能や考え方や価値観、それが経験化なんですよ。

そういうふう言語と体験が結びつくと、武蔵野らしい解釈で、なるほどなということになるんですがね。

○原委員 委員長さん、細かいことでもいいですか。

○葉養委員長 いいですよ、どうぞ。

○原委員 20ページに、キャリア教育の推進のところに、職場体験の充実という中で、全中学校実施と書いてあるんですが、今やっていない学校あるんですか。

○石代統括指導主事 ないですね。

○原委員 ないですよ。何か普通に読むとやっていないところがあるから全校実施で充実するというふうに読まれてしまうんじゃないかなという気がするんですが。

○石代統括指導主事 わかりました。日数は違いますが、やっています、全部。考えます。

○葉養委員長 ほかにいかがでしょうか。あと5分ぐらいで一応きょうのところは終わりにしたいと思うんですけども……

○原委員 学校の立場からいいますと、例えば20ページの食育全体計画の作成（全校）とあるんですが、これも今年度、全校出しているんじゃないかと思うんですが。

○鈴木指導課長 全校やっていますよと。

○原委員 やっていますよという意味なんですか、これ。

○鈴木指導課長 はい。職場体験もそうなんですけれども。

○原委員 よくわからないな。やっていることを挙げるのか。

○小山田委員 重点的な取り組みというのは、この施策の体系図の中には入ってこないんですか。何か重点的な取り組みがあって、基本方針があって施策があるので、私、非常に読み取りにくいんですよ、この全体像というのが。だから、その重点と基本方針がどうなっているのかとか、やっぱり市民の方が読んだときに、重点的な取り組みと言っているんだけど、この体系の中ではどこでそれを、ある意味で大事なところですよ。その基本がこの中でどうつながっているのかが見えないから、どうもさっきから言っているようにいろいろなものが重なったりしてきているのだと思うんです。そこをきちんとみんなにわかるようにすっきりというか、厳しいんですけども、そこをやるとよく見えてくるんじゃないかなと。

○原委員 体系図にもし触れるとしたら、これやっぱり一番左側にくるのは、武蔵野市が目指すこれからの学校教育じゃなくて、さっきの「次代を担い」というのがそこにくるべきだろうと思うし、それからそうすると1点目も施策展開の3つの柱じゃなくて、これは基本理念を支える、何だっけ。やっぱりそういうことを、きちんと言葉は一致させていかないと混乱が起きるんじゃないかという気がするんですけども。

○葉養委員長 ありがとうございます。

ほかにかがででしょうか。何かお気づきの点ございましたら。

言葉遣いで注釈みたいのは、基本計画は入れていますよね。つくるんでしょうね。言葉の説明、セカンドスクールは皆さんわかるのかもしれない。でも、外部の人はわからないと、セカンドスクールという。そういうちょっとまた作業もあったり、まだかなり膨大な作業がある感じはします。

ほかにかがででしょうか。

あと1回で中間まとめのところまでいかないといけないものですから、それでパブリックコメントにかけるといふ段階になります。きょう出していただいたご意見は、整理にかかわるご意見がかなりあったので、もう少し全体を構造的に整理し直すということが求められたのかなという感じがしますけれども。

○原委員 委員長さん、3ページとか4ページは全然今回ここで触れていないんですけれども、こちらはもう検討しないんでしょうか。

○葉養委員長 学校教育、第2章ですね。

○原委員 第2章、第3章というあたりは全然きょうのここで触れていないんですが……

○葉養委員長 こども、きょうは時間がございませんので、次回には全部とにかく中間まとめということで完成させなきゃいけないので、事前にもしファクス等でご意見を承れば事務局のほうに出していただければ、そのほうがいいかもしれません。ちょっと会をもう1回しか開けないので、ちょっと間がしかも一月ぐらいいきまますので、お気づきの点をファクス等でちょっと……

○原委員 ファクス等で。

○葉養委員長 ええ、とりあえず出しておいていただいて、次回に向けるというほうがいいかもしれませんので。

いかがでしょうか、そういう扱いをさせていただいて。日程的にちょっと次回の9月に開けないものですから、9月のブランクというのはかなり大きいので、お気づきの点をぜひそれぞれの委員さん、ファクスで送っていただいて、それを踏まえて次回の原案をおつくりいただくというほうが能率的ではないかと思うんですけれども。

いかがですか、事務局のほう、そういう担当では。

○秋山教育企画課長 時間的にもう1回開ければいいんですけれども、多分、皆様もお忙しいと思っておりますので、こちらにファクスあるいは電話でも構いませんので、本当はきょう時間があれば全体的なところ、4以外の1から3までの意見がいただければよかったです、ちょっと時間が限られているので、できれば1週間ぐらいうちに電

話でもファクスでも構いませんので事務局にいただいて、それも含めて、我々のほうですぐ回答できなかつたところもありますし、かなり引き取りさせていただいていますから、それをあわせて回しまして、次回あるいは提示させていただきたいと思っております。

○葉養委員長 そうですね。ファクス番号と電話番号、これに、下のほうに書いてございますが、そちらのほうにお願いできればと思います。それを踏まえた上で、事務局のほうで10月2日の次回に向けての原案をつくっていただくという……

○秋山教育企画課長 そうですね。きょうまたいただいた意見の中で、我々のほうでもちょっとしんしゃくできない点もあるかもしれません。それに関しては、また個人的に連絡をさしあげるんですが、ちょっと聞くこともあるかもしれませんので、そちらのほうよろしくお願ひしたいと思います。

○葉養委員長 それでよろしゅうございますでしょうか。少し個別対応とか、そういうことも出てくるかと思ひますけれども。

○秋山教育企画課長 アドバイス等もいただければと思ひますので。

○葉養委員長 そうですね。最終的には次回、10月2日の会合で議論いただいて、修正したものをパブリックコメントに付するという段取りにさせていただきたいと思ひます。これからの作業かなり重要なので、どんな小さなことでも結構でございます。お気づきの点ございましたら、ぜひお寄せいただければと思ひます。

それで、よろしゅうございますでしょうか。

それでは、次回以降の日程の確認は、これはもう先ほどされていますけれども。

○秋山教育企画課長 次回は10月2日の金曜日ということで、お願ひしたいと思います。

○葉養委員長 ほかに事務局のほうから何かございますか。それでよろしゅうございますね。

一応9月は開けないものですから、9月の分をできるだけファクス等で、ご意見ございましたらお出しいただければ、あるいは電話でも結構でございます。そういうちょっと事務局と個人ベースのを含んだ中で少し整理させていただきまして、10月2日に備えるということで進めさせていただければと思ひます。

よろしゅうございますでしょうか。

○秋山教育企画課長 よろしくお願ひします。

○葉養委員長 では、本日は非常に活発に有益なお話をしていただきましてありがとうございます。これをもって本日は閉じさせていただきます。

どうもありがとうございました。

午後 8時52分閉会